

## 28. 新規分野における 国際標準化アクションプラン

新規分野の国際標準化アクションプランは、昨今、社会的責任、セキュリティ及び教育サービスなどの新たな分野での国際標準化の動きが進展していることから、本年より策定されることになった。

ISO/TMB/WG/SR、ISO/TMB/WG/Risk management、ISO/TC223 及び ISO/TC232 を、新規分野の重点TCとして選定している。

## 1. ISO/TMB/WG/SR（社会的責任）

### 1. 分野の全体概要・最近の動向

ISO/TMB/WG/SR（社会的責任）は、TMB 直下の WG として、2005 年に設置され、現在では、70 を超える ISO メンバー国から約 400 名のエキスパートが参画して ISO26000（組織の社会的責任のガイダンス）の策定を行っている。エキスパートは、消費者、政府、産業、労働、NGO、その他のグループ（Service, Support, Research and Others）の 6 つのステークホルダーカテゴリーに区分けされている。日本からも各ステークホルダーからエキスパートが総会等に積極的に参画し、規格策定に貢献している。また、TG2（コミュニケーション）のコンビナーを日本人が務めるとともに、IDTF（統合原案タスクフォース）にも日本人が参画しており、規格の円滑な策定に大きく寄与している。現時点での進捗状況としては、2008 年 12 月に CD が 3 ヶ月の投票に回付され、2009 年 5 月のケベック総会を経て、DIS 段階に進むこととなる見込みである。

### 2. 重点 TC の選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

活動計画：

2009 年 5 月 第 7 回 ISO/SR 総会（ケベック）

2010 年 4 月 第 8 回 ISO/SR 総会（場所未定）

規格発行は、2010 年第 4 四半期予定

想定される課題：

ISO26000 の規格化は、産業界、消費者、労働、NGO、政府、サービス・サポート・研究・その他の 6 分野からの専門家による審議が行われているが、今後の規格開発においては、国内のこれら 6 分野からの意見の合意形成、及びそれらの国際審議への反映が重要となる。また、ISO26000 は全ての組織を対象としており、とりわけ途上国及び中小企業のニーズを反映し、それらの国、企業にも使いやすい規格にすることが必要となる。

### 3. 重点 TC の活動状況

(1) 対象としている TC/SC/WG 番号及び名称

ISO/TMB/WG/SR は、ISO26000（組織の社会的責任のガイダンス）を制定する ISO 技術管理評議会直下の作業部会であり、この下に次の分科会がある。議長、事務局はツイニングを採用。

ISO/TMB/WG/SR：

議長（ブラジル、スウェーデン）、事務局（ブラジル、スウェーデン）

TG1（資金援助とステークホルダー関与）：

議長（スウェーデン、ISO 中央事務局）、事務局（韓国）

TG2（コミュニケーション）：

議長（日本、アルゼンチン）、事務局（タイ、カナダ）

TG3（運用手順）：

議長（ISO 中央事務局）、事務局（コロンビア）

IDTF（統合原案タスクフォース）：

議長（従来の TG4～TG6 の議長による共同議長）、事務局（ドイツ、カナダ）

(2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向（規格化方針・運営方針等）

- マネージメントシステム規格としない、適合性評価（第三者認証を含む）を目的としない。
- 6つのステークホルダー（産業界、労働、消費者、政府、NGO 及び SSR0（サービス・サポート・研究・その他））のコンセンサスをベースに議論。
- あらゆる組織に対する社会的責任のガイダンス。
- ISO26000 の国際規格原案（DIS）作成中。
- ISO26000 の発行は 2010 年第 4 四半期予定。

#### 4. 我が国の活動実績

(1) 全体概要

規格策定に関わる審議は、WG の下に設置された IDTF 及び編集委員会で対応。

- ・ ISO26000 第 4 次作業原案第 1 版(WD4.1) 及び第 2 版(WD4.2) について国内委員会で審議。
- ・ 2008 年 9 月 第 6 回 ISO/SRWG 総会（サンチャゴ）
- ・ ISO26000 委員会原案（CD）について寄せられたコメント及び CD 投票について国内委員会で審議。

また、規格策定を進めるための IDTF、CAG（議長諮問グループ）会議への積極的な参加、日本主導でのアジアフォーラムの開催を実施。

(2) 活動実績

##### ① 国際会議参加実績

2008 年 4 月	IDTF 会議（ケープタウン）	日本から 1 人参加
2008 年 8 月	IDTF 及び CAG 会議（ニューヨーク）	日本から 2 人参加
2008 年 9 月	第 6 回 ISO/SR WG 総会（サンチャゴ）	日本から 15 人参加
2008 年 10 月	IDTF 会議（ポツダム）	日本から 1 人参加

##### ② 上記以外での活動実績

2008 年 9 月	アジアフォーラム開催（サンチャゴ）
2008 年 11 月	マレーシア ISO26000 セミナーへの講師派遣（クアラルンプール）
2008 年 11 月	CSR アジアフォーラムへの講師派遣（シンガポール）

## 5. 我が国の活動計画

2009年4月 IDTF 及び CAG 会議（バーレン）

2009年5月 第7回 ISO/SR WG 総会（ケベック）

2009年10月 ISO26000 国際規格案（DIS）回付

## 2. ISO/TMB/WG/Risk management (リスクマネジメント)

### 1. 分野の全体概要・最近の動向

ISO/TMB/WG/RM(リスクマネジメント)は、豪州と日本からの共同提案により2005年ISO/TMBの直轄WGとして設置され、ISO31000（リスクマネジメント規格）の開発作業を行っている。また、2006年からはISOガイド73（リスクマネジメント用語）の改訂作業を並行して行っている。議長国は豪州、幹事国は日本が務めている。

### 2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

昨今の自然災害、企業不祥事などに鑑み、リスクマネジメントに関する国際標準を策定することで、リスクマネジメント手法の統一化を図り、組織間の混乱回避とレベルアップを目指す。2009年にISO31000及びISOガイド73（改訂）が同時発行予定。

### 3. 重点TCの活動状況

#### (1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称

ISO/TMB/WG/RM（リスクマネジメント）

議長国：豪州、幹事：日本

#### (2) 対象としているTC/SC/WGの最近の動向（規格化方針・運営方針等）

##### 1) ISO31000（リスクマネジメント規格） FDIS 段階

この規格は、組織の運営にかかわるリスクを適切にマネジメントする際の理念・基本概念や共通のプロセスの手順、並びに、運用する場合の方法論などを記述。

規格の対象者は、組織規模の大小や業種・業態に係らず、あらゆる組織を対象としている。また、規格が（第三者）認証制度に用いられることを意図しない。

なお、2009年6月よりFDIS投票実施予定。

##### 2) ISOガイド73（リスクマネジメント用語） ドラフトガイド段階

ISOガイド73は、ISO31000における用語及び定義を記述。当初は、ISOとIECのダブルロゴで検討が進められていたが、ISOの単独ロゴで発行される予定。

なお、2009年4月よりドラフトガイド投票実施予定。

## 4. 我が国の活動実績

### (1) 全体概要

幹事国業務も含め、積極的に参加を行っている。

- ・ 第5回 ISO/TMB/WG/RM 2007年12月 サンヤ会議

・第6回 ISO/TMB/WG/RM 2008年11月 シンガポール会議

## (2) 活動実績

### ① 国際会議参加実績

年月	会議名	参加延べ人数
2007年12月	第5回 ISO/TMB/WG/RM サンヤ会議	4人
2008年11月	第6回 ISO/TMB/WG/RM シンガポール会議	4人

### ② 幹事国業務・議長・コンビナー引受実績

2005年 ISO/TMB/WG/RM 設立時より日本は国際幹事

## 5. 我が国の活動計画

幹事国業務も含め、積極的に参加を行う予定。

### ① 国内対応

- －ISO31000（リスクマネジメント規格）のFDISに対するコメント作成及び投票
- －ISO ガイド 73（リスクマネジメント用語規格）のドラフトガイドに対するコメント作成及び投票

### ② 国際幹事国業務

- －FDISに対するコメントに対処し ISO31000 を編集
- －ドラフトガイドに対するコメントに対処し ISO ガイド 73 を編集

## 3. ISO/TC223（社会セキュリティ）

### 1. 分野の全体概要・最近の動向

2001年9月のアメリカ同時多発テロ後、アメリカがISO国際標準化機構に対し危機管理に関する標準化の検討開始を提案し、「社会と組織の危機管理と事業継続の能力向上に関する標準化」を視野にスウェーデンを議長国とするISO/TC223（社会セキュリティ）が2006年5月に設置された。日本は2006年10月に国内委員会を設置、積極的に参画を行っている。

組織の事業継続計画BCP作成の指針となる文書を検討し2007年11月に一般公開文書としてISO/PAS22399 緊急事態準備と業務継続マネジメントガイドラインを出版。

### 2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

社会セキュリティに関する国際標準の策定に向け、我が国産業界の意見を反映させつつTC223の活動に主体的に関与していくことが重要である。TC223では、社会セキュリティに関する広範な領域で標準化が検討されており、TC223の動向は注視する必要がある。

### 3. 重点TCの活動状況

#### (1) 対象としているTC/SC/WG番号及び名称

ISO/TC223（社会セキュリティ） 議長国・幹事国：スウェーデン

- WG1 社会セキュリティマネジメント 主査：日本
- WG2 用語 主査：イギリス
- WG3 指揮・命令及び協力・協調 主査：ドイツ
- WG4 緊急事態準備と業務継続マネジメント 主査：オランダ
- TG2 TG1 で策定した文書のモニター並びに関連文書の検討 2008年5月に解散
- AHG 社会セキュリティ技術の標準化に関する調査 主査：イスラエル
- (2) 対象としている TC/SC/WG の最近の動向（規格化方針・運営方針等）
- WG1 社会セキュリティマネジメントに関する規格の共通基盤を確立することを目的として設置。規格開発のためのフレームワークやロードマップの作成が進められている。
- WG2 社会セキュリティの分野で使用される関連用語の規格化が進められている。
- WG3 指揮、統制、調整および協力に関する規格開発を目的として設置。緊急時における、情報収集／情報処理、情報の流れ／知識の流れ、相互運用性、構造および手続き、意思決定支援および警告などの規格化が検討されている。  
2008年 Public Warning の標準化を検討するために TG を設置（コンビナ：日本）。
- WG4 緊急事態準備および業務継続マネジメントの分野の規格化が進められている。  
・ ISO 22399: 緊急事態準備と業務継続マネジメントガイドラインの規格化  
・ ISO 22301: 緊急事態準備と業務継続マネジメント—要求事項の規格化
- AHG 社会セキュリティ技術の標準化に関する調査・取り纏めが進められている。

#### 4. 我が国の活動実績

##### (1) 全体概要

日本からも積極的に参加を行っている。

##### ①総会の開催状況

第5回 ISO/TC223 総会	2008年5月	ソウル
第6回 ISO/TC223 総会	2008年11月	バリ

##### ②WG/TG レベルの開催状況

###### <TG2 会合>

第2回 ISO/TC223/TG2 会合	2008年4月	ミラノ
第3回 ISO/TC223/TG2 会合	2008年5月	ソウル

###### <WG1 会合>

第4回 ISO/TC223/WG1 会合	2008年5月	ソウル
第5回 ISO/TC223/WG1 会合	2008年11月	バリ

###### <WG2 会合>

第4回 ISO/TC223/WG2 会合	2008年5月	ソウル
第5回 ISO/TC223/WG2 会合	2008年11月	バリ

###### <WG3 会合>

第7回 ISO/TC223/WG3 会合	2008年5月	ソウル
第8回 ISO/TC223/WG3 会合	2008年9月	ミラノ

- 第 9 回 ISO/TC223/WG3 会合 2008 年 11 月 バリ
- <WG4 会合>
- 第 1 回 ISO/TC223/WG4 会合 2008 年 9 月 デルフト
- 第 2 回 ISO/TC223/WG4 会合 2008 年 11 月 バリ
- 第 1 回 ISO/TC223/WG4 編集委員会 2009 年 3 月 ストックホルム
- <AHG 会合>
- 第 1 回 ISO/TC223/AHG 会合 2008 年 11 月 バリ

## (2) 活動実績

### ① 国際会議参加実績

年月	会議名	参加延べ人数
2008 年 3 月	第 6 回 ISO/TC223/WG3 ベルリン	2 人
2008 年 4 月	第 2 回 ISO/TC223/TG2 ミラノ	1 人
2008 年 5 月	第 5 回 ISO/TC223 総会 ソウル	9 人
2008 年 9 月	第 8 回 ISO/TC223/WG3 ミラノ	2 人
2008 年 9 月	第 1 回 ISO/TC223/WG4 デルフト	2 人
2008 年 11 月	第 6 回 ISO/TC223 総会 バリ	9 人
2009 年 3 月	第 1 回 ISO/TC223/WG4 編集委員会 ストックホルム	1 人

### ② 幹事国業務・議長・コンビナー引受実績

2008 年度：TC223/WG1 のコンビナーを引受

2008 年度：TC223/WG3/TG のコンビナーを引受

## 5. 我が国の活動計画

社会セキュリティに関する国際標準の策定に向け、我が国産業界の意見を反映させるよう主体的に関与していく。また、日本がリーダーシップをとっている WG1 及び WG3/TG の支援を行っていく。

予定されている会議は次の通り。

第 7 回 ISO/TC223 総会 パリ 2009 年 5 月（各 WG が同時に開催）

第 8 回 ISO/TC223 総会 南アフリカ 2009 年 11 月（各 WG が同時に開催）

ISO/TC223/WG3 Public Warning ワークショップ 2009 年 9 月（東京開催）

## 4. ISO/TC232（人材育成と非公式教育サービス）

### 1. 分野の全体概要・最近の動向

ドイツからの提案により、2006 年 11 月に新たな TC として設置され、ISO/13146（非公式教育・訓練のための学習サービス—サービスプロバイダーへの一般要求事項）の開発作業を行っている。

日本においては、2007 年 12 月に国内審議委員会を設置し、積極的な参画を行うとともに、

2009年3月には東京においてTC232及びTC232WG1を開催した。

## 2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

IS013146については、2009年2月のCD投票において可決されたことから、2009年中にDIS投票が行われ、2010年中にはIS化される予定。

なお、本分野における標準の開発は初めてのことであり、利害関係者への周知・理解が必要となるとともに、IS013146では、サービスの質の保証を目的とした、マネジメントシステム規格の開発が進められていることから、規格化された後の認証制度のあり方についても検討が必要となる。

## 3. 重点TCの活動状況

現在のところ、TC直下において1つの標準化開発が進められている。なお、当該標準化の開発に当たり、WG1（教育サービスプロバイダー）が設置されている。

## 4. 我が国の活動実績

### (1) 全体概要

日本からは次のとおり参加を行っている。

第2回総会 2008年4月 フィラデルフィア

第2回WG 2008年4月 フィラデルフィア

第3回WG 2008年11月 シドニー

第3回総会 2009年3月 東京

第4回WG 2009年3月 東京

### (2) 活動実績

#### ① 新規提案数：0件

#### ② 国際会議参加実績：5回23人

		参加延べ人数
2008年4月	第2回総会 フィラデルフィア	3人
2008年4月	第2回WG フィラデルフィア	3人
2008年11月	第3回WG シドニー	5人
2009年3月	第3回総会 東京	5人
2009年3月	第4回WG 東京	7人

#### ③ 幹事国・議長・コンビナー等引受実績：0件

#### ④ その他の活動実績：

TC232における活動状況を日本の関係者に広く周知することを目的として、議長をはじめとするTC232会合に出席している関係者を4カ国から招聘し、シンポジウムを2008年7月に開催した。

## 5. 我が国の活動計画

IS013146 に係る DIS 投票に関するコメント作成等を行う予定。

なお、2009 年に予定されている会議は次の通り。

第 4 回総会 2009 年 6 月 ロンドン